

平成 26 年度 インクルーシブ教育システム構築モデル事業 成果報告書Ⅰ
【インクルーシブ教育システム構築モデルスクール】

教育委員会名

高知県南国市教育委員会

概 要

モデルスクールの概要（平成 27 年 3 月 23 日現在）

	モデルスクール名	在籍者数	教職員数
1	南国市立長岡小学校	251 名	23 名
2	南国市立後免野田小学校	136 名	23 名
3	南国市立鳶ヶ池中学校	147 名	17 名

【事業概要】

1. モデルスクールの特色（特別支援教育に関する事項）

【南国市立長岡小学校】

後免野田小学校と小小連携を図り、人権教育を基盤とした児童指導に取り組んでいる。特別支援学級も 3 学級あり、ソフト・ハード両面でインクルーシブ教育に取り組んでいる。また、地域の特性として就学前の教育にも課題が多くあり、小 1 プロBLEM 解消に取り組むに当たり、誰にでも分かる授業作りに取り組んでいる。

【南国市立後免野田小学校】

児童数 136 人 9 学級の小規模校ではあるが、特別支援学級がそのうち 3 学級ある状態である。特別支援学級に在籍する児童は 13 人おり、通常の学級と交流しながら食農教育等の特色ある学習に取り組んでいる。また、全校児童の約 17%（22 人）が LD・ADHD 等の発達障害の可能性がある、みんなが分かる授業作りを研究主題として取り組んでいる。

【南国市立鳶ヶ池中学校】

上記 2 小学校から進学してくる中学校として小中連携教育に取り組み、学力や規範意識の向上に取り組んでいる。中でも、ユニバーサルデザインを中心とした授業作りに取り組んでおり、LD・ADHD 等の発達障害の可能性のある生徒でも分かる授業を展開している。

2. 取組の概要

【教育委員会がモデルスクールに対して行った取組及び支援】

- ・事業実施に係る担当指導主事の派遣及び指導・助言
- ・事業内容・予算執行に係る担当指導主事の派遣及び指導・助言
- ・実践校における先進校の取組の情報収集・情報提供による支援
- ・進捗状況の把握のための定期的な学校訪問
- ・高知県教育委員会事務局特別支援教育課、中部教育事務所及び特別支援学校等との連携による指導体制及び支援体制の強化
- ・インクルーシブ教育システム構築のための実践について、南国市内の保幼小中の教職員に報告

【モデルスクールとして行った取組】

個別の教育的ニーズのある児童生徒に対して、その時点で最も的確に応える指導をできる合理的配慮を実践し、自立と社会参加を目指した。

そのため、3校合理的配慮検討委員会を毎学期1回程度実施し、対象児童生徒の個別の教育支援計画に基づく情報共有を行うとともに、支援方法の確認を行った。また、3校合理的配慮協力員の情報交換会を毎月行い、合理的配慮についての研修を行った。

さらに、合理的配慮について全教職員が共通理解を図り、学級・学校・中学校区・家庭・地域で連携し特別な配慮を要する児童生徒の支援を行い、保護者の合意・協力を得ながら、家庭・学校で行う支援の在り方を共有してきた。

3. 成果及び課題

平成26年度に引き続き、南国市合理的配慮協力員に前高知市立養護学校の校長を任用し、長岡小校内研修でインクルーシブ教育について全教職員に講話してもらい理解を深めることができた。また、新たに元高知市教育研究所特別支援教育班指導主事を後免野田小学校に、特別支援学校担任経験者を鳶ヶ池中学校に配置し、3名が合同で共生社会の形成に向けた啓発を学校内外に広めることができた。

特別支援学校等関係機関との連携については、合理的配慮を必要とする児童生徒の保護者に、養護学校等の仕組みや実践を紹介しながら視察等を行った。また、養護学校の公開研究会に小学校教職員が参加し、知的障害、発達障害児童生徒への支援の仕方を研修した。

また、特別支援学級担任及び学校特別支援教育コーディネーターにも、校内での役割や特別支援教育の発信の仕方などを南国市合理的配慮協力員が丁寧に指導することで、通常の学級における特別支援教育通信『一人ひとりが主人公』を定期的に発行できた。

そして、合理的配慮の実践については、南国市教育委員会・管理職・特別支援学級担任・学校特別支援教育コーディネーター・南国市合理的配慮協力員が定期的に研修も行いながら協力し、様々な実践を行うことができた。

課題としては、この取組を南国市全体に広げていかなければならないことと、学校設備の整備を整えて行かなければならないことが残っている。